



No.69 2020.8.17

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

大久保小学校運営協議会報告を通して今後の学校運営協議会の役割を考える

大久保小学校より 7月28日に開催された第2回学校運営協議会の報告が届きましたのでご紹介させていただきます。

報告文より（昨年度の課題）

今回の大きな目的は、昨年度の課題を解消し、本会の運営を前進させることでした。昨年度の課題として、次の4点があげられていました。

- ① 年間3回（学期に1回）の本会の開催をしたものの、児童に直接関わりのある、意見交流にまでは至っていない。今後、いかに学校側が課題を明確にし、活性化し意見交流がなされるようになっていくかが課題である。
- ② 本会で協議したことを、保護者や地域の方々にいかに情報発信していくかが課題である。
- ③ 2020年度以降における大久保サポーターズ（仮称：詳細は後日提案）を、いかに活動促進していくかが課題である。
- ④ 2020年度以降の本会における組織運営について、学校側、地域側に設置したそれぞれの担当者（地域連携担当教員並びに地域コーディネーター）が、いかに連携を密にしていくかが課題である。



報告文より（熟議で出た意見一部）

良 さ：

- ・児童の行動（素直、優しい、あいさつができる、ルールを守るなど）
- ・昔から受け継がれている地域の行事がある。（祭りなど）
- ・自然豊かで、交通の便も良い。
- ・校区が広く様々な人が住んでいる。（それぞれの強みが活かせる）

課 題：

- ・児童の行動（コロナに伴う様々な変化で疲れが見られる。）
- ・以前から生活している方々と新しく居住された方々の交流が少ない。
- ・自然環境や交通面で安全に気をつけなければならない場所がある。
- ・今後の生活を見据えた、オンラインの環境整備が必要である。（市で対応し始めている。しかし、タブレットなど全国的に不足している。）

取組案：

- ・地域の既存の組織をもっと活用する。（自治会など）
- ・地域に住んでいる方々にコミスクに参加する仕組みづくりを行う。（学校をよりよくしていくためのアイデアの募集、語り合う場の設定など）
- ・タブレットなどは、導入後の対応も見据えて検討する。
- ・あいさつ運動を継続する。



暑い中、学校に集まっていたいただき熱心な熟議、ありがとうございました。

あげられた課題解決に向け大久保小の実態に目を向け、大久保小の良さや課題を確認し、課題解決に向けての方策を熟議されたようです。

課題の中にある情報発信もこのように話し合われた内容だけでなく、どのような形で話し合ったかまで発信していくことが、取組案の中にある「地域に住んでいる方々にコミスクに参加する仕組みづくりを行う」ということにつながっていくのではと思います。大久保小学校さんのように学校運営協議会で熟議に取り組まれているケースはまだまだ少ないですが、こうした熟議の場が広まっていけばいいなと願っています。

明石市は平成22年に施行された明石市自治基本条例に基づき、「市民参画」・「情報共有」・「協働のまちづくり」を自治の基本3原則に掲げ、

- ・28小学校区・13中学校区にコミュニティ・センター
- ・小学校区ごとに多岐にわたる地域課題を総合的に対応する「協働のまちづくり推進組織」
- ・スポーツクラブ21 ・スクールガード ・地域支援諸団体等

といった仕組みがつくられ、地域づくりに向けての取組みが行われています。また、明石市は「SDGs 未来安心都市・明石の創造～次なる100年のまちづくり～」をめざしており、この度、兵庫県内初で「SDGs 未来都市」にも選定されるなど、コミュニティ・スクールの土壌は十分整っており、他地域からみるとすでに全校区でコミュニティ・スクールが動いていると見えるかもしれません。しかし、そうしたまちづくりの仕組みや取組等を含め社会とのつながりというところはどうでしょうか。コミスクとして内向きな学校づくりになるのではなく、社会とつながり市民を育てる学校づくり＝地域づくりを行うという視点を持たないと社会の変化から取り残されていくという危機感があります。

今回のコロナ禍でコミスクの役割の重要度が増したと感じています。コロナ禍で、日本社会の構造的な課題が浮き彫りになる中で、学校の長年積み重なってきた構造的課題も浮き彫りになり、“社会がかわれば学びがかわる、学びがかわれば学校もかわる”といったように社会の変化に対応した学びを進化させる仕組みづくりを突き付けられたように感じています。コロナが開けた次世代の世界につづくドアを開いて一歩踏み出すか、ドアを閉めてドアの隙間から見えた次世代の世界を見なかったことにするか。今、もう一度原点に戻って本質である「学びと育ち」についての対話を始めることが、「新たな学びと育ちのシステム」デザインにつながっていくと考えます。

明石のコミュニティ・スクールは「新たな学びと育ちのシステム」と考えています。コミュニティ・スクールづくりは「新たな学びと育ちのシステムづくり」に向けての“SCRAP&BUILD”です。

コミスクに取り組み始めた時、10年位かけながら徐々に移行していくというイメージでした。しかし、コロナがもたらした社会の変化のスピードは凄まじいものです。その社会の変化のスピードに取り残されないよう「新たな学びと育ちのシステム」づくりとコミスクとして目的を共有し、学校・家庭・地域が協働にむけコミスクとしての熟議をステップアップする必要があると考えています。「社会に開かれた教育課程」とは教職員でカリキュラムをデザインするのではなく、これからの社会に必要な資質・能力を育む仕組みを教職員、保護者、地域の方、そして子どもも一緒になって考え、デザインしていくという意識の変容が必要だと考えています。理想だとか夢物語といわれそうですが、そうした方向に向けての動きが日本各地で始まっています。また、保護者や地域住民の働き方の変化や今回のコロナ禍の中で見えてきた学校の役割の変化等に対応するためにも、熟議を積み重ねていくことが必要なのだと思います。

今回のコロナ禍は、幕末に黒船がやってきて鎖国から開国へと動いたような大きな社会の仕組みの変化の渦ではと思っています。みなさんどう思われますか？（文責：北本）